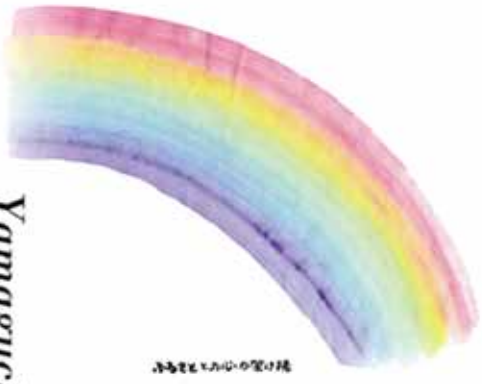
おかげさまで15周年！



山口七夕会

Yamaguchi tanabata-kai

■設立15周年記念■

会長挨拶

山口七夕会 会長

八木 重二郎

山口七夕会も世田谷区民まつりでの山口七夕ちょうちんの火入れをきっかけに設立されてから15年目の夏を迎えました。

「祭りと絆で人と情報の交流」の理念のもとに会員のみなさまとともに来し方を振り返り、行く末を見開きたいと考えています。2010年に定めました「山口七夕会２０２０ビジョン」も今年は折り返しの年を迎え、ブラッシュアップを図ります。

平成の大合併により市域を拡大した新しい山口市の歴史と文化を学び、山口市の発展に寄与できるよう、東京と山口を両極として会員の輪を広げ、活動の充実を図っていきます。

東京では、山口県東京事務所や公益財団法人防長倶楽部を中心に、在京の山口県人ネットワークを活用した山口県の情報発信はもとより、山口県産品の販路開拓や観光資源の売り込み、UJIターンの促進、山口県への支援人材の派遣など県づくりを東京から応援することをめざして「山口県応援隊東京本部」が発足しました。山口七夕会も同郷会や同窓会のネットワークに加わり、積極的に協力していきます。さらに、首都圏から新しい技術や情報の提供を行うと共に「ふるさと納税」に積極的に協力し、郷土山口市の活性化に貢献できることを微力ながら願っております。

山口支部は設立から3年目を迎えて山口本部となり、会員数も100名を超えました。楽農部会の田植えや稲刈り、音楽会の集いが開催され、さらに健康長寿をめざしたウォーキングやランニングなどのイベントに協力するなど、活動の空間と仲間の輪が広がっています。

また、私が代表理事を務めております、一般財団法人産業遺産国民会議では、国をはじめ全国8県11市の自治体とともに、「明治日本の産業革命遺産　九州・山口と関連地域」の世界遺産登録をめざしています。この世界遺産登録が実現すれば、山口県に世界遺産が生まれることになり、観光客の誘致や地域経済の活性化に貢献できると確信しています。山口七夕会も国・山口県などと協力して、世界遺産登録に向けた活動を応援していきますので、会員のみなさまのご協力をよろしくお願いします。

このように、山口市ゆかりの人々の会として東京で創立されて15年、山口七夕会は郷土山口市から山口市ゆかりの方々の絆と交流の広がりで、点から線へ、線から面へと会員のすそ野を広げる時を迎えています。

明治維新から150年を迎える2018年、東京オリンピック・パラリンピックの開催される2020年をめざして、私たちはさらに仲間の輪を広げ、相互の親睦を図り、教養を高め、郷土山口市の発展に寄与する活動を展開していきますので、みなさまのさらなるご支援とご協力をよろしくお願いします。

平成26年（2014年）9月

祝 辞

山口市長

渡辺 純忠

この度、山口七夕会が設立15周年を迎えるにあたり、このように素晴らしい記念誌を発行されることは、大変喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。また、平成11年の本会発足以来、会員数は年々増加し、そのネットワークがますます広がっておりますことを心強く感じますとともに、ふるさと山口の発展を願い、御尽力いただいております会員皆様方に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

さて、本会の会員の皆様をつなぐ合言葉は、一言で申しますと「山口への郷土愛」であろうかと思います。その思いを共通項に首都圏を中心に御活躍されます皆様が、当時を懐かしむ、今を見つめる、未来に思いを馳せる、そして、ふるさとを通じて語り、つながり合えることが本会の魅力でございます。

私も毎年の本会総会をはじめ、会員の皆様との語らいの中で、まちづくりへのエールをいただくなど、心熱くさせていただいております。山口の歴史、文化、自然、そして、家族や友人たちと過ごした時間など、有形、無形のふるさとのひとつひとつが、今の私たちを育んでくれました。こうした誇り深き山口に寄せる皆様の御期待にお応えできるように、私はこれからもふるさとを守り、さらに発展させてまいる所存でございます。

現在、人口減少という我が国全体が抱える大きな課題が取り上げられています。こうした課題の一方では、本市を全国に発信し、交流人口を増加させる絶好の機会として、平成30年の明治維新150周年や来年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の放映がございます。本市ではこの機を逃すことなく、官民あげて全国からの観光客の誘致や地域経済の活性化に向けて取り組んでいるところでございます。

どうぞ、会員の皆様におかれましては、引き続き、首都圏から厳しくも温かい視点で本市のまちづくりへの御提言や、本市の魅力発信へのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりにあたり、本市のさらなる発展のため、今後とも会員の皆様の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、山口七夕会のますますの御発展と会員皆様の御健康、御多幸と御活躍をお祈り申し上げます。

平成26年（2014年）9月

山口七夕会15周年記念誌

目次

◆ ごあいさつ　山口七夕会　会長 八木重二郎 …… 1
◆ 祝辞　山口市　市長 渡辺純忠 …… 2
◆ 設立趣旨書 …… 3
◆ 設立の経緯 …… 4
◆ 特別寄稿
・山口七夕会15年に寄せて　山口七夕会初代会長 原野和夫 …… 5
・山口七夕会設立当時を振り返って　山口市副市長 吉田正治 …… 6
・全国街道交流会議「萩往還・山口大会」(2012-13) 参画報告
山口本部長 児玉秀文 …… 7
◆ 活動の記録 …… 9
◆ 会員寄稿
・山口七夕会入会における【一夜】のコメント
小川勝義(会員No.26) …… 25
・山口線の早い復興を　山根和也(会員No.39) …… 26
・徳佐八幡宮をご存じでしょうか？
八木重二郎(会員No.52) …… 27
・私の今　武内衛子(会員No.219) …… 28
・山口七夕会　山口支部　設立２周年を迎えて
児玉秀文(会員No.228) …… 29
・私と山口　横田理博(会員No.316) …… 31
・私の今　奥原　保(会員No.330) …… 32
・子ども達とふるさと　山仲秀子(会員No.363) …… 33
◆ 会則／役員名簿 …… 34

絵・山根和也(会員No.39)

設立趣意書

山口七夕会発起人一同

本会は、山口市を愛し山口市の発展を願う者が、相互の交流を図りながら理解を深めるとともに、ふるさとやまぐちの社会、経済及び文化の発展に寄与することを目的として設立するものであります。

山口市は、来る２１世紀を目前とした平成１１年に市制施行７０周年という節目を迎えます。昭和４年の市制施行当時、人口3万3千人でスタートしましたが、今では１４万人の都市として着実に発展をしてきております。

その間、山口市は県都として、また、行政、教育、文化さらには情報都市として発展してきており、近年では、「自然と文化をはぐくみ躍動する中核都市　やまぐち」を基本理念に、山口市のもつ長い歴史や文化、豊かな自然環境を生かした活力ある中核都市づくりを目指したまちづくりが進んでおります。

また、若者にとって魅力ある就業の場づくりとして、「山口テクノパーク」、「鋳銭司団地」、「山口物流産業団地」を整備するなど企業誘致を全国に働きかけています。

さらには、安心して暮らせるまちづくりとして、世界的に環境保全が進められている中で循環型社会の構築に向け、「山口市リサイクルプラザ」を中核施設として廃棄物の減量化や資源化にも積極的な展開を図っています。

こうしたまちづくりにより、皆様から「環境にやさしいまち」、「人にやさしいまち」として全国的にも認識されつつあります。

今日、ふるさとやまぐちの発展があるのも、郷土を愛する諸先輩方の教えに負うところが大であると、あらためて敬意を表する次第であります。

この度の「山口七夕会」の設立は、郷土山口市のますますの発展と会員相互のネットワークを広げるとともに、本会とふるさとやまぐちとの情報交換を行うことで山口市の活性化に結びつくものと考えます。

何とぞ本会設立の趣旨、目的にご賛同を賜り、お一人でも多くの方のご参加を頂ければ光栄に存じます。ここに趣意書を添え、ご入会のご案内を申し上げます。

平成１１年2月吉日

設立の経緯

平成5年8月

山口商工会議所青年部が東京都世田谷区で開催される「ふるさと区民まつり」に山口七夕ちょうちんを出展。

平成9年8月

市からの要請により、東京在住山中・山高同窓会を中心に区民祭りにおいて七夕ちょうちんの火入れに有志が参加。

平成9年12月

区民まつりをきっかけに本会の設立についての企画が出され、市関係者、課が協議を行う。

平成10年5月

市関係者、課で設立までの手続き等について協議を行う。
発起人を要請。

平成10年6月

発起人会開催、及び総会開催準備について、市関係者、課が協議を行う。

平成10年8月

(仮称)山口七夕会発起人会開催(会場:世田谷区馬事公苑)。

平成10年10月

会員募集(発起人向け)。

平成11年2月

山口七夕会設立総会(会場:中央区日本橋三越本店)。

山口七夕会15周年に寄せて

初代会長　原野和夫

旧制山口中学51期で一緒だった小林兼年君が昭和62年春、山口市長になった。私が山口に帰ると小林君は歓迎してくれた。湯田のスナックでカラオケも歌った。

ところが3年後か、彼の市政が2期目に向けてアクセルを踏み込もうという時に彼は卒然として倒れた。驚き暗然たる思いで葬儀に駆け付け弔辞を読んだ。

その時に顔を見たジュニアがいまや山口市議会議長として活躍している。2年前の山口七夕会で会って頼もしく歓談した。感激するとともに隔世の感を深くした。平成9年、世田谷区民まつりに顔を出し、小林君後継の佐内正治市長さんに会ったら「ちょうちん祭りも名物になったが、予算などのこともあり、そろそろ撤退しようか」という話。せっかくの山口人の集まり、何とか続けようということになり、佐内さんの指示で市役所の方たちがお膳立てをしてくれた。馬事公苑近くの中華料理屋で発起人会が開かれた。七夕らしく暑い日だった。発起人の皆さんも大乗り気で、早速手分けして会員集めに動いた。

そして平成11年、日本橋三越の食堂での設立総会。あれから15年。幹事の皆さんや市の皆さんの熱意が結集し、いまやしっかり成長し定着した。七夕会の会合が待ち遠しくなった。山口を好きな人はまだいっぱい居るはず、それぞれに声を掛けましょう。

磯田道史さんの「歴史の読み解き方」（朝日新書）に、「江戸時代に長州藩のGDPが高かったのは藩官僚の手腕の高さもさることながら、農民や町民のリテラシー、教育水準が高かったから」とあった。「明治から昭和16年に行われた「壮丁教育調査」でも山口の成績は非常に高かった、江戸時代から戦時中まで山口県の家庭教育は高い水準にあり、庶民教育の高さは長州において極まっていたのかも知れない。～」とあった。

「ただ最近の学力テストでは学力は落ちてきているようなのは不思議」とあるのは残念だが…。

「長州はある種の“すさまじさ”を持っている。不思議なエネルギー。ひょっとするとこの国の熱源なのかも。興味のつきないところ」と磯田氏。

七夕会10周年記念誌で渡辺勝正さんが近松門左衛門長州出身説を紹介されていた。近松の浄瑠璃に「ちごうた」「死ぬる」「いかい」など山口弁を使っていると。たまに文楽を観るが私には新発見だった。この手の例は他にもある。長州－山口には教育と文化の伝統とロマンとエネルギーがある。その“熱源”からさらに文化の実が育つに違いない。

山口七夕会設立当時を振り返って

山口市副市長　吉田　正治

平成５年当時、私は商工観光課長で「山口七夕ちょうちん祭り」を首都圏でＰＲしたいと常々考えていたが、灯かりの蝋燭が東京消防庁から認めてもらえなかった。

武蔵野市の吉祥寺商店街で七夕ちょうちんを飾る話、また、渋谷のイベント広場でのＰＲ活動も、東京消防庁から許可が出なかったので電球で飾ったが、全く幽玄さがなくただの明かりであった。その理由は火災になるとのことであった。

そこで、私は本市の消防長に相談したところ「山口七夕ちょうちん祭り」は、伝統行事であるから認めているが、新たに商店街で提灯に蝋燭で灯かりを燈すのは許可できないであろうとの話であった。

そのような中、５月の連休に小さな町と大きな町の交流で本市の秋穂二島の子供会と世田谷の子供会の交流が行われ、山口七夕ちょうちん祭りの伝統行事が世田谷区役所青少年課から時の区長に伝わり、祭りの内容を見せてほしいとの連絡が入った。

そこで、私と当時の商工会議所青年部長が、５月２０日に世田谷区役所青少年課に七夕ちょうちん祭りのビデオを持参し説明をした。当日は、区長には会えなかったが、消防庁の許可が出ないことは伝えてほしいと話し帰山した。

１週間後、世田谷区役所から今年の「ふるさと区民まつり」に七夕ちょうちんを一式持参で飾ってほしい、区民まつりは区長権限だから東京消防庁は関係ない、心配しないでほしいとの連絡があった。早速、市長、商工会議所会頭と協議をし、参加することに決定した。

それからが大変であった。

まず、６月上旬ちょうちんを飾る竹を山に伐りに青年部の皆さんとで出かけ、竹を３０本伐り、１箇所に置き、葉が落ちるのを待った。１ヶ月後、竹を見に行くと葉がぜんぜん落ちていないではないか。竹は１１月から２月の間に伐らないと葉が落ちないということを知らなかった。竹の葉落としは大変な作業であった。

いよいよ、「ふるさと区民まつり」の前々日。一式をトラックに積み込み、青年部２名の運転で出発し、青年部９名、市役所３名計１２名で世田谷に向かった。

そして、まつりの前日。馬事公苑の入り口の参道のケヤキの木に竹を括り、ちょうちん１５００個を飾った直後に大夕立に見舞われ、一瞬にしてちょうちんは全部破壊。これらを取り外す作業で、着用していた真っ白のＴシャツが真っ赤になった。

ちょうちん１５００個は失ったが、こんなアクシデントもあるのではないかと、予備として準備していたもう１５００個はトラックに積んでいて助かった。

当日は天候も良く、１９時に１５００個のちょうちんに火入れをしたところ世田谷の区民の皆さん方が歩くのを止められ、揺ら揺らとする灯かりに見入っておられた姿に感動したのが今も忘れることができない。

ちょうちんの点燈が終わり、竹の枝を切り１個ずつ区民の方々に持ち帰っていただくように準備をすると、あっという間に１５００個がなくなった。

平成９年の区民まつりから、山口市出身の東京在住者の方々にちょうちんの火入れに参加していただくようになり、その後「山口七夕会」の設立へ向け機運が高まり平成１０年８月に馬事公苑の会議室において山口七夕会発起人会が開催され、平成１１年２月に設立総会が開催された次第である。

全国街道交流会議第９回全国大会「萩往還・山口大会」（2012-13）参画報告

山口七夕会　山口本部長　児玉秀文

□主催
『全国街道交流会議第９回全国大会「萩往還・山口大会」』実行委員会（委員長：山口市長　渡辺純忠）、ＮＰＯ全国街道交流会議（代表理事　藤本貴也～元国土地理院長）

□共催
山口市、萩市、防府市

□設立趣旨
　全国街道交流会議は、街道の持つ文化空間としての役割や交流機能に着目し、人と地域の往来を見直し、交流・連携を進め、地域づくり、みちづくりのあり方を再構築しようとするものである。
　本実行委員会は、これまでの活動や萩往還における地域の取り組みの成果を踏まえ、維新の道・萩往還を舞台に、全国街道交流会議第9回全国大会「萩往還・山口大会」を開催し、全国に向け『街道』と『観光』による地域再生を提案し、街道の観光ブランド化や広域観光連携による地域づくりに貢献することを目的として設立する。

◇7月17日
第1回事前勉強会
【街道観光とまちづくり】
（山口市民会館）
○講師：須田寛（元ＪＲ東海初代社長、現相談役、日本商工会議所観光専門委員長）
　友人の、持山銀次郎さん（協和コンサルタンツ社長、山口七夕会会員）が全国街道交流会議監事をしている縁で、山口七夕会山口支部長としてこの大会に参画することになりました。
　前日に藤本代表理事、古賀専務理事、持山監事に同行して山口近辺の萩往還ほか関連場所を案内した後、山口市の吉田副市長主催の関係者交流会に参加しました。

◇9月29日
第2回事前勉強会
【萩往還・防府会議～街道のあるまち　三田尻御茶屋】（英雲荘）
　萩往還・三田尻まち歩き（旧街道ウオーク代表：大竹亮～防府市が代役）　；午前中にまち歩きを実施。
①幕末動乱の三田尻（防府天満宮歴史館顧問：一坂太郎）
②世界に誇る瀬戸内再発見（元国土地理院長：藤本貴也）
③大阪と防府、歴史の縁（大阪・水都賑い創出実行委員会委員長：伴一郎）
④歴史的遺産の活かし方（パネル討論）
　会議後は、松浦防府市長主催の関係者交流会に参加しました。

◇10月20日
特別勉強会【淀川クルーズ～平成・三十石船の旅】（大阪）
　「全国街道交流会議」の連携行事で、世界初のリチウム電池推進船『あまのかわ』試乗会に招待され、淀川水運、枚方～（淀川川下り）～毛馬閘門、中之島、東横堀川、道頓堀と約４時間のクルーズ。
　同船の開発ＰＪに参加したのは、伴アピール・ツネイシクラフト＆ファシリティーズ・大洋電機テクノ販売・三菱重工、建造はツネイシクラフト、運行は 伴アピール、定員４０名、全長１５m全幅３．２m水面からの高さ１．５m喫水０．５m総トン数１２t、１時間の充電で６時間以上の連続運転が可能との事でした。

◇11月23日
第3回事前勉強会
【萩往還・萩会議「宿場のまちづくりと街道観光」】（佐々並）
ＡＭ：萩往還佐々並伝建まち歩き～案内人「萩往還佐々並どうしんてやろう会」
【報告と提案】
①「佐々並の宿場町おこし」
　林壯助（どうしんてやろう会会長）
②「鹿野街道のまちづくり」
　佐々木千代子（ＮＰＯ法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会/鳥取県）
③「街道の町並みおこし」

大竹亮（ＮＰＯ法人全国街道交流会議理事）
④「街道交流から街道観光へ」
須田寛（日本商工会議所観光専門委員長）
【意見交換】「街道のみちおこし・まちおこし」
進行：藤本貴也（代表理事）
【まとめ】
「萩往還・山口大会」に向けて（2/1-2　第９回全国大会を山口市で開催）。夜は萩で、野村市長主催の関係者交流会に参加しました。

◇1月31日
【直前勉強会～街道観光キーパーソン交流会】（湯田）
話題提供：「観光とまちづくり～酒蔵ツーリズムなどの動き」
瀧本徹　観光庁観光地域振興部長
秋田～福岡まで各地で活躍するキーパーソン２０余名が参加しての、意見交換会＆交流会でした。
交流会の会食は、１５００年に室町幕府第十代将軍だった足利義稙が山口の大内義典を訪問したとき、もてなした献立を再現した大内御膳を試食しました。
当時存在しなかった砂糖・醤油・みりんを使わないにも関わらず大変美味しく味わえました。

◇2月1日
全国街道交流会議第９回全国大会『萩往還・山口大会』（全国より関係者５００余名参加）（湯田）
＜基調報告＞
「古地図でみる萩往還」
（金谷山口県文書館副館長）

＜基調講演＞
「街道とまち、むら再生」
（山本山口県知事、須田ＪＲ東海相談役、石田筑波大学院教授）

＜分科会＞
「新しい観光とまちづくり」
「街道交流と地域再生」～意義を考える
「街道交流から街道観光へ」～手法を探る
戸田和彦中国地方整備局長、山下隆中国経済連合会長（中国電力会長）、山本繁太郎山口県知事、須田寛ＪＲ東海相談役、石田東生筑波大学学長補佐、藤本貴也全国街道交流会議代表理事（元国土地理院長）、渡辺純忠萩往還山口大会実行委員長（山口市長）、野村興兒萩市長、松浦正人防府市長ほか全国各界から多くの人々が参加され、会議後の交流会で懇談しました。

◇2月2日
『萩往還・山口大会』現地見学会（萩）
山間コースを選択し野村萩市長の先導で、佐々並・明木を見学後、倅坂駕籠建場跡～道の駅萩往還・松陰記念館～涙松・梅林公園と萩往還の険しい山道をガイドさんの説明を聞きながら歩き、その後は、萩本陣（社長の松村孝明さんは山口県観光連盟会長）で昼食＆温泉を堪能しました。

【総括】街道維新～街道とまち、むら再生～
「観光」の語源は、易経にいう「国（地域）の光を観る」ことにあるという。
幕末、諸国「観光」の志をもって多くの志士たちが街道を旅し、さまざまな日本を発見していった。未曾有の災害のなかにあって、日本古来の絆がみなおされいくつもの環がうまれることで、再生の芽生えがおきつつある。
かつての志士たちは言うであろう。地域再生の知恵は足下にある、と。
国土を結び風土を創った古道・街道に温（たず）ねて、新生の方法（みち）をしる。
日本を深める旅への出発を、維新の道『萩往還』で提案する。

活動の記録

総 会

第1回 平成11年度／1999年7月31日 世田谷区馬事公苑事務所

山口市制70周年記念ビデオ放映

この年2月に設立総会を日本橋三越本店で開催し、山口七夕会が正式に発足。
また、8月には会場を世田谷区馬事公苑に移し、世田谷区民まつり開催と同時期に第1回定時総会を開催。総会終了後は、山口市制70周年記念ビデオを鑑賞し、ふるさと山口に思いをはせ、引き続き開催された懇親会では、ふるさと山口の話に花を咲かせた。

第2回 平成12年度／2000年8月5日 虎ノ門パストラル

講演会（詩人・佐々木幹郎氏）

会場を虎ノ門パストラルへ移し、平成12年度の定時総会を8月5日に開催。総会終了後には、記念講演会を開催し、記念となる第1回目の講師として詩人の佐々木幹郎氏をお迎えし、「中也の長州」という題目で大変有意義な講演をいただいた。 なお、この年から会の事務局は山口市秘書課から山口市企画調整課(現企画経営課) へ変更された.

第3回 平成13年度／2001年8月4日 銀座アスター三軒茶屋賓館

講演会（大内文化のまちづくり協議会会長・福田礼輔氏）

平成13年度の総会は、8月4日に銀座アスター三軒茶屋賓館で開催し、記念講演会では、大内文化まちづくり協議会会長の福田礼輔氏をお招きし、『歴史文化のまち山口「山口七夕ちょうちんまつり」』を題目に、
特に山口市の礎を築いた大内氏について貴重な講演をしていただいた。

活動の記録

総 会

第4回 平成14年度／2002年8月3日 銀座アスター三軒茶屋賓館

講演会(山口市長・合志栄一氏)

この年4月から、より多くの方に会をPRするために山口七夕会のホームページを開設。

8月3日には、定時総会を昨年度同様に銀座アスター三軒茶屋賓館で開催した。また、山口市長による講話会を始め、懇親会では、山口ふるさとクイズ大会を開催し、賞品をかけて会員同士大いに盛り上がった。

また、会設立当初、多額の寄付をいただいた吉田虎禅氏が逝去された。

第5回 平成15年度／2003年8月2日 日本工業倶楽部会館

演奏会・講演会(石井志都子氏)

山口情報芸術センター(YCAM)が開館したこの年、山口七夕会は、設立5周年をむかえ、会の歩みと活動内容を記録した記念誌を作成。

さらには、会員特典として湯田温泉の旅館の宿泊費が10%割引となる割引カードも作成し、会員全員へ配布した。

また、8月2日には場所を日本工業倶楽部へ移し、定時総会を開催。総会終了後、バイオリニスト石井志都子氏によるミニコンサートを開催。「ユーモレスク」、「チゴイネルワイゼン」など5曲を熱演され、一同、間近で演奏される名曲に聞き入った。

第6回 平成16年度／2004年7月31日 日本工業倶楽部会館

講演会(中原中也記念館館長・福田百合子氏)

「山口市の文化」

この年の定時総会は、7月31日に昨年と同様に日本工業倶楽部会館で開催。恒例の講演会では、中原中也記念館長の福田百合子氏が「山口市の文化」と題して、中原中也を中心に山口市の文化を丁寧に説明され、会員それぞれが改めて山口市の文化のすばらしさを実感した。

活動の記録

総 会

第7回 平成17年度／2005年7月30日 日本工業倶楽部会館

講演会(山口県立美術館学芸員･荏開津通彦氏)「雪舟」

1市4町が合併し新山口市が誕生したこの年、旧4町出身者及び関係者の方にも会員の輪を広げることとなった。7月30日に日本工業倶楽部会館で開催した定時総会は、旧山口市からの出席者をはじめ、合併を控えた旧4町からも町長及び助役らが駆けつけ、盛大に行われた。

総会後、山口県立美術館学芸員の荏開津通彦氏を招き、「雪舟」を題目に講演会を開催し、懇親会では、参加者らが近況報告をしたり、ふるさとの話題で会話を弾ませた。

第8回 平成18年度／2006年7月29日 日本工業倶楽部会館

朗読(小口ゆい氏)「みすゞが見た夢」

7月29日に開催された第8回定時総会では、この年の5月に行われた新「山口市」誕生記念式典の映像とともに、山口市民の歌「ふるさとの風」を傾聴した。

さらに、「みすゞが見た夢」を題目に、七夕会会員の小口ゆい氏による講演会を開催し、金子みすゞの詩を通して、日本語の生きた言葉の美しさ、すばらしさも実感させられた。また、この講演会では、参加した会員も詩の朗読に挑戦する等、とても面白い講演会となった。

第9回 平成19年度／2007年8月4日 日立金属高輪和彊館

講演会(「長州ファイブ」製作委員長　前田登氏)

「長州ファイブで学んだこと」

中原中也生誕100 年を迎えたこの年、定時総会は8月4日に場所を日立金属高輪和彊館に移して開催した。

恒例の講演会では、混乱の幕末期、新しい時代を切り開くため英国へと密航し、近代日本の基礎を築いた長州藩の若き5人の志士たちを描いた映画、「長州ファイブ」の制作委員長である前田登氏を講師としてお招きし、制作の過程や苦労話等、日頃なかなか聞くことの出来ない貴重なお話を伺った。

活動の記録

総 会

第10回 平成20年度／2008年7月26日 ライオン銀座クラシックホール

講演会(山口情報芸術センター館長　足立明男氏)
「ア・ビューティフルシティー　−YCAM」

山口七夕会が発足して10周年を迎えたこの年の7月26日に、会場をライオン銀座クラッシクホールに場所を移して、第10回の定時総会を開催し、この10周年記念誌の作成をすること等をここで決定した。

講演会では、開館から5周年を迎える山口情報芸術センター(YCAM)館長足立明男氏をお招きし、「ア・ビューティフルシティー-YCAM 」を題目に、YCAMの活動を始め、専門である浮世絵の話も織り交ぜた講演に会員一同耳を傾けた。

第11回 平成21年度／2009年7月25日 音楽ビヤプラザライオン

講演会(アートふる山口実行委員長　内山秋久氏)
「～手づくりでつなぐまちおこし活動
「アートふる山口」～」

7月26日、約60名の参加で定時総会を開催した。

7月の豪雨災害の復旧活動のため、市長、市議会議長が急遽欠席となり、代理で出席した岩城教育長から山口市内の被災状況について画像を交えて報告があり、幸いにも人的な被害はなかったものの、地域によっては大きな傷跡が残ったとのこと。

総会では、平成20年度事業報告、決算及び監査報告、平成21年度事業計画、予算の審議を行い、原案通り承認された。

また、幹事・役員の改選も行われ、会創設以来、会の発展に功績のあった、原野会長、山本幹事長が幹事に、縄田副会長、末繁幹事が退任。新たに、八木会長、久永副会長、山縣幹事長、山仲幹事、渡邊幹事、原元監事、藤井顧問が就任した。

第12回 平成22年度／2010年7月31日 東海大学校友会館

講演会(詩人･文月悠光氏)
「～詩よ、ことばにならないで。～」

7月31日、65名の参加で定時総会を開催した。

総会では、平成21年度事業報告、決算及び監査報告、平成22年度事業計画、予算の審議を行い、原案通り承認された。また、今後10年の長期計画にあたる「山口七夕会2020ビジョン」も議案として審議し、決定した。

総会に続く講演会では、中原中也賞を受賞された若き詩人文月悠光氏に「～詩よ、ことばにならないで。～」と題してご講演いただいた。

活動の記録

総 会

第13回 平成23年度／2011年7月30日 東海大学校友会館

講演会(山口鷺流狂言技術保持者・米本文明氏)

「山口に現存する鷺流狂言」 狂言:演目「鬼瓦(おにがわら)」

7月30日、76名の参加で定時総会を開催した。山口から渡辺市長、野村市議会議長をはじめとする市役所幹部が出席。各議案が、原案通り承認された。

講演会では、狂言についての世界的な権威、武蔵野大学名誉教授 小林責氏に「山口に現存する鷺流狂言」と題してご講演いただいた。また、山口鷺流狂言保存会のみなさまによる「鬼瓦」の実演も行われた。

懇親会は、防長倶楽部「きらら会コーラス」のメンバーを中心に急きょ結成された「七夕合唱団」の歌声で開会。防長倶楽部や各同窓会からのPRもあり、会員のみなさま同士、また、山口市のみなさんと親しく懇談され、ふるさと山口の話題で盛り上がった。

第14回 平成24年度／2012年7月28日 東海大学校友会館

講演会(中原中也記念館名誉館長・福田百合子氏)

「サビエルと中也」

総会には、山口から渡辺市長、小林市議会議長をはじめとする市役所幹部が出席。総会後、関係団体の活動報告として会員の山本博さん(山口大学経済学部同窓会「鳳陽会」理事長)から、2015年に山口講堂から創基200 年を迎える山口大学の歴史と現在を語っていただいた。DVD 上映「山口大学200年の歩み」では懐かしい風景を鑑賞した。

総会に続く講演会では、中原中也記念館・名誉館長の福田百合子先生が「サビエルと中也」と題してご講演。

懇親会は、昨年に続き、防長倶楽部「きらら会コーラス」のメンバーにも参加いただき「七夕合唱団」の歌声で開会!山口から届いた山口特産品「柑味鮎」、銘酒「山頭火」などに舌鼓を打ちながら、会員同士、また市役所幹部のみなさんとふるさと山口の話題で大いに盛り上がった。

活動の記録

総 会

第15回 平成25年度／2013年7月28日 東海大学校友会館

講演会（東京大学教授・工学博士・
日本機械学会会長・金子成彦氏）

『日本近代工学の祖 山尾庸三と東京大学工学部』

講演会は、七夕会会員である金子成彦氏（東京大学教授・工学博士・日本機械学会会長）に『日本近代工学の祖 山尾庸三と東京大学工学部』と題して講演いただいた。長州ファイブの一人で近代工学の礎を築いた山尾庸三氏の功績を中心に、明治初期における山口市出身の学者の活躍等について幅広くお話しいただいた。

懇親会は、恒例となった「七夕合唱団」のリードで「花は咲く」、「吉田松陰」の全員合唱で開会。山口市嘉川の銘酒「山頭火」に舌鼓を打ちながら、会員同士、また市役所幹部のみなさんとふるさと山口の話題で盛り上がった。また、恒例となったじゃんけん大会は、山口特産品の「柑味鮎」を賞品に行われ、渡辺市長の同期のみなさんが壇上で激励をしたり、参加者同士の会話が弾んだりと、賑やかなひと時となった。

第16回 平成26年度／2014年7月26日 東海大学校友会館

講演会（一般社団法人山口県観光連盟
歴史サポーター・松前了嗣氏）

『明治維新の策源地山口市』

7月26日、60名の参加で「おかげさまで15周年！設立15周年記念」と銘打って、定時総会を開催した。総会に先立って、15周年を記念して新たな会旗のお披露目を行った。新調した会旗は、前会長の原野和夫氏の書と会員の山根和也氏の絵とデザインによるカラー版。

総会には、山口から渡辺市長、俵田市議会議長様をはじめとする市役所幹部が出席。

総会に続き、山口支部の活動報告が入江幸江・山口本部副本部長から行われた。

講演会は、山口市在住の郷土史家・松前了嗣氏による「明治維新策源地　山口市」。山口弁を駆使しての講演に感動と納得の一時を過ごした。

懇親会は、山口市嘉川の銘酒「山頭火」、法人会員の村重酒造の「金冠黒松」に舌鼓を打ちながら、会員同士、また市役所幹部のみなさんとふるさと山口の話題で盛り上がった。

活動の記録

交流会

第1回 平成16年12月1日 航空会館

講演会(山口七夕会会長・原野和夫氏)

「プロ野球の課題」

会員同士の交流の場を増やすことによって更なる会員相互の交流を図り、会の基盤を強化することを目的に、第1回山口七夕会交流会を開催。

記念すべき第1回目は約50人の出席があり、「プロ野球の課題」を題目に、元プロ野球パリーグ会長を歴任された原野会長による講演会を始め、会員相互の交流を図った。

第2回 平成17年4月25日 航空会館

講演会(弁護士・北村哲男氏)

「裁判員に選任されたらどうするか」

4月25日に開催された第2回交流会では、七夕会会員である北村哲男氏による「裁判員に選任されたらどうするか」を題目にした講演会を開催した。

第3回 平成17年11月28日 航空会館

講演会(参議院議員・岸　信夫氏)

11月28日に開催した第3回交流会では、参議院議員の岸信夫氏をお招きし、時局についての講演をしていただくなど年2回の交流会を開催した。

第4回 平成18年4月8日 サッポロライオン銀座七丁目店5階ホール

講演会(山口市長・渡辺純忠氏)

4月8日に開催された第4回の交流会では、渡辺純忠市長が就任後始めて七夕会へ参加され、今後の山口市の展望や抱負について語られた。

第5回 平成18年11月25日 サッポロライオン銀座七丁目店5階ホール

講演会(木山克彦氏)「ヒマラヤ紀行」

11月25日に開催した第5回交流会では、ヒマラヤに登攀された木山克彦氏を向かえ「冒険と夢の旅路¦ ヒマラヤ紀行」を題目に、スライドの映写を交えながら大変貴重な講演をしていただいた。

第6回 平成19年4月1日 サッポロライオン銀座七丁目店5階ホール

講演会(野村和成氏)「生活習慣病について」

4月1日の第6回交流会では、埼玉野村病院理事長・院長であり、七夕会会員でもある野村和成氏により、癌の話を含めた生活習慣病についてのお話をお伺いした。

活動の記録

交流会

第7回 平成19年4月1日 サッポロライオン銀座七丁目店5階ホール

講演会（渡辺勝正氏）

「武田軍師山本勘介は山口にいた!」

12月1日に開催した第7回の交流会では、同じく会員で杉原千畝や山本勘介の研究家である渡辺勝正氏をお招きし「武田軍師山本勘介は、山口にいた¦ 」という衝撃的な題目で講演をしていただいた。

第8回 平成20年4月5日 サッポロライオン銀座七丁目店5階ホール

講演会（山本哲也氏）「放送は人のおもしろさに尽きる」

4月5日に開催された第8回交流会では、NHK アナウンサーの山本哲也氏による「放送は人のおもしろさに尽きる」を題目にご講演いただいた。

第9回 平成20年12月2日 東海大学校友会館

講演会（岩見隆夫氏）「政局の展望」

12月2日の第9回交流会では、政治ジャーナリストの岩見隆夫氏をお招きし、ねじれ国会における微妙な政局について貴重なお話をしていただいた。 また、この年から、七夕会通信を発行し、市報と一緒に会員全員へ送付し始めた。

第10回 平成21年4月3日 東海大学校友会館

講演会（林芳正氏）「経済の動向と政策」

第11回 平成21年11月28日 ポールライト都庁店

演奏会（遠TONE音コンサート）

11月28日、60名（男性41名、女性19名）の参加で第11回山口七夕会会員交流会を開催。

八木重二郎会長の挨拶の後、箏・尺八・ギターによるコンサートを開催。年末を控えたあわただしい時期ながら、会員一同に一楽器の音色に耳を傾けていた。

また、コンサートに続く懇親会では、会員相互の懇親をはかり、大いに盛り上がった。

活動の記録

交流会

第12回 平成22年4月17日 東海大学校友会館

講演会（作家・清川妙氏）「生きる日々の喜び」

交流会では八木会長の挨拶に続き、山口市役所・中村総合政策部長から山口市の近況について報告があった。

清川妙先生は、山口県立山口高等女学校・山口県立山口高等学校で教職につかれていたこともあり、会員の中にも教え子がおられたりして、和やかに交流の輪が広がりました。50冊用意された著書も売り切れ完売の好評でした。また、清川先生が山口高等学校の校歌の作詞者であることから、渡邊幹事の指揮で「山口高等学校校歌」、「山口県民の歌」を歌うなど盛り上がりを見せた交流会でした。

第13回 平成22年12月12日 東海大学校友会館

講演会（俳優・川野太郎氏）「ふるさと山口の思い出」

12月12日、52名の参加で第13回会員交流会を開催した。

今回は、山口市役所の吉田副市長や山口鴻城高校の御縁で、俳優の川野太郎氏に『ふるさと山口の思い出』と題して講演いただいた。

講演では、俳優としての川野氏から撮影やロケでの出来事やなかなか聞けない話を披露していただいた。

懇親の合間に、首都圏で活躍されている会員や防長倶楽部、山口法人ネットワーク、大学や高校の同窓会など友好団体を紹介し、近況報告やスピーチをいただいた。

和やかなうちに宴も盛り上がり、あっという間に時間が去り、いつものように久永副会長に賑々しく締めていただき、お開きとなった。

活動の記録

交流会

第14回 平成23年4月24日 東海大学校友会館

講演会(米川孝宏氏)

「挑戦と応戦ーITの波とわれわれのチャンスー」

3.11東日本大震災から1ヶ月あまり経た4月24日に第14回山口七夕会交流会を開催した。東日本大震災犠牲者への黙祷の後、八木会長が「元気な私たちが、「がんばろう、日本!」、「支えよう東北!」の心で、未曽有の大震災からの復興に共に取組んで行きたいと思います。」と挨拶した。

第15回 平成23年10月23日 東海大学校友会館

10月30日(日)に東海大学校友会館(霞ヶ関ビル35F)において28名の参加で交流会を開催した。

この年は会員が講師になっての講演や、会員と関係団体の活動を紹介するかたちで行った。

会員の活動紹介

(1)NPO法人亀山公園を愛し育てる会の活動について

(坂本強・理事長)

(2)観世流謡曲・仕舞の紹介&謡い「高砂」

(松隈昌子・観世流名誉師範)

(3)コンサートの紹介「石井洋之助メモリアルコンサート(没後20周年記念)」　(山本和生顧問)

(4)おことの大師範・声楽、カラオケ教室

(牧野紀美子・埼玉県三曲協会理事)

(5)山口県東京事務所　(村田常雄・所長)

(6)公益財団法人・防長倶楽部　(村野仁・事務局長)

<会員の店舗紹介>

①日本料理「花・味兆(はな・みちょう)」(大嶋愛子会員)

②いこいの湯御食事処　(俣野暁美会員)

活動の記録

交流会

第16回 平成24年2月18日 東海大学校友会館

講演会（宇部興産常務執行役員・渡邊史信氏）

「ドイツとスペイン・・・13.5年の欧州駐在を振り返って」

2月18日（土）に東海大学校友会館（において42名の参加で交流会を開催しました。

第17回 平成24年10月21日 東海大学校友会館

講演会（陸上自衛隊研究本部主任研究開発官
元自衛隊山口駐屯地司令・池田和典氏）

「身近に感じる安全保障」

～自衛隊の災害派遣から国際貢献まで～

10月21日（土）に東海大学校友会館において29名の参加で開催しました。

活動の記録

交流会

第18回 平成25年3月3日
東海大学校友会館

卓話
(1)梅田圭良会員「オリンピックと山口」
(2)石田順康会員「私の欧州スキー」
(3)藤村　啓会員「裁判の仕事」

3月3日(日) に東海大学校友会館において32名の参加で開催しました。

八木会長の挨拶の後、今回の講演会は卓話形式で、三人の会員の方から、趣味や仕事のお話しをいただきました。

○梅田圭良会員からは、「オリンピックと山口」と題して、山口市出身のオリンピック選手の話をいただきました。

○石田順康会員(副会長)からは、「私の欧州スキー」と題して壮大なスケールでのヨーロッパアルプスでのスキーツアーから料理や音楽まで幅広く語っていただきました。

○藤村 啓会員からは、「裁判の仕事」と題して普段なかなかご縁のない裁判や法律の問題についてお話しいただきました。

懇親会では、山口県東京事務所の村田所長から山口県の最近の話題やかなめ会、桜圃会、山高同窓会から近況の報告がありました。また、ご夫婦で参加の会員が増えてきていることから、八木会長の良子奥様、久保玲子様、大枝美春様からスピーチをいただくなど和気あいあいとした時間を過ごし、原田幹事の締めでお開きとなりました。

活動の記録

ふるさと山口交流会

第1回 平成22年11月3日 ホテルニュータナカ

意見交換会&懇親

「山口七夕会2020ビジョン」の策定に向けて、ふるさと山口との交流拡大を目的に「第1回山口七夕会ふるさと交流会」を開催しました。
山口からは、渡辺市長、岩城教育長をはじめとする市役所幹部、山口商工会議所・中野会頭、イレブン会・松浦代表幹事、八木顧問、かなめ会・橋本会長、山高同窓会・末永副会長、橋本副会長ほか、アートフル山口・内山実行委員長ほか、山口観光コンベンション協会・宮川副理事長、山口ケーブルビジョン・前田総務局長ほか、山口七夕会は東京からの八木会長、山口からの児玉会員など総勢40名を超える参加がありました。

第2回 平成23年10月1日 プラザホテル寿

講演会&懇親交流会

10月1日(金)に東京からは八木会長、石田副会長、山縣幹事長、杉川会員の4名が帰山し、また山口の会員からは河内幹事、児玉会員が参加して、「第2回山口七夕会ふるさと交流会」を山口市湯田温泉のプラザホテル寿で開催しました。

講演会は、「人と情報の交流」のツールとして、今回、初めて行いました。講師には、6月に東日本高速道路㈱会長を退任した八木重二郎山口七夕会会長に「道路公団民営化の5年とその経営」と題して講演いただきました。

活動の記録

ふるさと山口交流会

第3回 平成23年(2011年)3月19日 プラザホテル寿

講演会(HUB ネットワークス株式会社
代表取締役社長兼CEO・米川孝宏氏)
「挑戦と応戦ーITの波とわれわれのチャンスー」

3月11日の東日本大震災から一週間、被災により亡くなられた方々への黙祷で哀悼の誠を捧げ、「第3回山口七夕会ふるさと交流会」を開催しました。東京からは八木会長、山縣幹事長、山口からは吉田副市長をはじめ20名を超える各界の方々に参加いただき、人と情報の交流を深めることができました。

第4回 平成23年11月5日 湯田温泉　翠山荘

講演会(宇部興産常務執行役員・渡邊史信氏)
「ドイツとスペイン・・・13.5年の欧州駐在を振り返って」

「第4回ふるさと交流会」を19名の方に参加いただいて開催しました。

懇親会では参加者の皆さんから自己紹介をいただく中でふるさとならではの御縁や地縁が明らかになったり、今後の山口七夕会のふるさと山口での活動に期待する声が上がり、大いに盛り上がりました。

第5回 平成24年8月12日 西の雅常盤

記念講演会(陸上自衛隊研究本部
主任研究開発官・池田和典氏)
「身近に感じる安全保障」
～自衛隊の災害派遣から国際貢献まで～

山口七夕会では、平成22年の定時総会で策定した「山口七夕会2020ビジョン」に基づき、「ふるさと山口への貢献と交流拡大」を目指して春と秋の「ふるさと山口探訪ツアー」や「ふるさと交流会」を開催してきました。こうした交流を通じて山口県内の会員も30名を超え、昨年来、支部創設に向けて活動が活発になってきていました。

これを受けて、8月12日、山口市湯田温泉のホテル「西の雅常盤」を会場に「ふるさと山口交流集会」&[山口支部設立総会]を63名の参加で開催しました。

活動の記録

ふるさと山口交流会

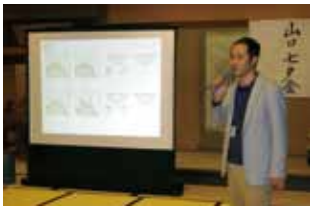
第6回 平成25年11月3日 山口市菜香亭

講演会(山口大学時間学研究所助教(特命)・岡本暁彦氏)

「原点と出発」

今回からは山口支部に企画・運営をお願いして、31名の参加で山口市菜香亭を会場に開催しました。
第一部は講演会で、『原点と出発』と題して岡本暁彦さん(山口七夕会会員)に講演いただきました。

第二部は、会場をカフェ「オー・カルチェラタン」に移して賑やかに「交流&懇親会」でした。締めは、山口に戻られて益々元気な前幹事長、山本和生顧問による「笑い締め」(ﾜｯﾊｯﾊｯﾊの三本〆)でした。



第7回 平成25年5月18日 西の雅常盤

講演会(明治維新研究家・松前了嗣氏)

「七卿落ちと長州藩」

山口支部では、5月18日に第7回ふるさと交流会が開催されました。今回は、山口市在住の明治維新研究家として有名な松前了嗣さん(45歳、岩国市錦町生まれ)に「七卿落ちと長州藩」と題した講演をしていただきました。講演では三条実美が周布政之助が自刃した翌日に松茸狩りに行っていた話など、風雲急を告げた幕末の長州藩の人々の心情までを、ほぼ山口弁で語られました。

第8回 平成25年11月9日 パルトピア山口(防長青年館)

講演会(山口中央高校教諭・牛見真博氏)

「長州藩教育の源流」

11月9日(土)にパルトピア山口(防長青年館)で講演会を開催しました。

演題は「長州藩教育の源流」でした。同名の著書を出版された山口中央高校の牛見真博先生に，幕末の学者山縣周南を中心に徂徠学を祖とし，吉田松陰によって花開いた長州藩教育についてお話ししていただきました。

交流会は歩いて移動して荻峠にあるインド料理「シバ」で行われました。今回の出し物は会員の津軽三味線奏者一燈さんによる津軽三味線演奏でした。その後，初参加者の自己紹介，はるばる東京から参加の会員のスピーチなどありました。。

24名の会員の参加があり，東京からも山縣幹事長，赤木一恵先生(会員)，岡本会員が参加されました。

山口支部交流イベント「輪-RIN-」平成26年5月25日 山口日産ショールーム

平成２６年5月２５日(日)１８時より、山口七夕会山口支部交流イベント「輪-RIN-」が、山口市大内の山口日産ショールームにて開催されました。

今回は、山口支部の若手会員が中心となり企画・運営が進められ、様々なジャンルの音楽を聴きながら自由に食事や会話を楽しむという内容でした。会員・会員家族をはじめ、会員の知人・友人など６０名余りの参加がありました。

今回、会場については、山口日産 末冨会長の御厚意により、無償で提供いただきました。

交流会では、まず東京よりお越しいただいた八木会長、児玉支部長の挨拶にはじまり、濱野文彦会員(津軽三味線奏者「一燈」)によるオープニング演奏、

活動の記録

ふるさと山口交流会

リュート奏者 山本 浩二氏、大正琴奏者の田原 伴子氏の演奏がありました。

その後、山口県のマスコットキャラクター「ちょるる」登場によるAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」のダンス、フォークギター奏者の白澤 真史氏による演奏、プロのトロンボーン奏者 小野 隆洋氏による特別ゲスト出演がありました。途中、山縣幹事長の兄弟ユニットによる飛び入り参加や瀬川副支部長による加山雄三の「君といつまでも」の熱唱があり、坂本哲也会員率いるバンド(BHW)による演奏や「ふるさと」「上を向いて歩こう」の全員合唱等々、その他、様々な企画やサプライズにより大いに盛り上がりました。

山口本部定時総会 平成26年8月3日 西の雅常盤

8月3日、山口本部になっての初めての定時総会が70名の参加でホテル「常盤」で盛大に開催されました。

総会に先立って講演会が開催され、白虎隊唯一の生き残り隊士飯沼貞吉の孫であり現在白虎隊の会の事務局長をされている飯沼一元さんに講演していただきました。

講演の内容は「白虎隊の真実~白虎隊士の孫が語る~」飯沼家では祖父が生き残りの白虎隊士であることはタブーであり、学校では「死にそこない。わざとあっさり喉を突いた。」などとイジメの対象だったそうです。まして「貞吉が許しがたい仇の仇である長州に行って養育された」という話は恥の上塗りになると信じがたかったそうです。

貞吉は、長州藩士楢崎頼三により長州に連れ帰られ地主の高見家で養育されますが、高見家ではその事実を「高見家の誇り」として伝承されているそうです。

講演を通じて、150年の時を超え、敵味方を超え、ここに新しい繋がりが生まれました。今回学んだこと、また新しく芽生えた繋がりを今後どう生かし発展させていくのか、私達に課せられた課題でもあります。

総会終了後は懇親会へ場所を移動。

小郡を拠点に活動されている「ふしの岩戸太鼓保存会」の皆さんによる勇壮な演奏で気合いを入れられた会は、「レノファ山口FCと共に闘いJ3昇格を目指す」、「明治日本の産業革命遺産　九州・山口と関連地域の世界文化遺産登録を目指す」ことが力強く確認されました。

これから山口七夕会がますます面白くなっていきそうな予感を感じさせるに余りある楽しい懇親会でした。

山口七夕会入会における【一夜】のコメント

会員No.26　小川勝義

山口七夕会は平成11年2月に設立された。

その年の4月に行われた東京65会（この会は山口高校65期の卒業生のうち、首都圏に在住する人をもって、40年前頃から始まった会ではあるが、当初は100名を超えるメンバーがいたが、その後、転居等諸々の事情により、現在では会に所属すると意思表示した人は60数名となっている。山本和生君が万年幹事となっていたが、昨年の隠居？帰省により、幹事は変わったが、実質の仕切り役の親分がいる。彼は60年近く、東京住まいながら、流暢に話す山口弁が標準語と思っている“変な親分”である。）の席で、七夕会の幹事長に就任した山本　君から七夕会の設立趣旨書の中で、「山口市を愛し、云々」の話が出ると、ここが親分の出番とばかりに「俺が入会適当かどうか判断する。」と、のたもうた。「先ず山口市出身者は全員を認める。何か質問があれば言え。」本来は自分の意思で入会するわけだが、何か変だ。以下、その夜の酒の上での会話の一部をご披露する。

開口一番、山口市の人から、俺の本籍は今も昔も東京だ、戦時疎開で祖父母の元に来て、そのまま住んだのだ。親分曰く、君は山口市に助けられたのだ、東京にいたら死んじょった。今があるのは誰のお陰か、会費を倍にすることで入会を許可する。

次いで、小川君は小郡じゃったね。小生曰く、小中高の12年間小郡で暮らした。その中で、サビエル教会には、ミサ、バザー、奉仕活動の都度行ったが、小郡にも愛着があると言うと、親分から、シロシイ、時間がない、黙っておれとの烈火の怒り、小郡の話なんぞ、後でやれー。つぎー。

秋穂出身の良い男、彼が、俺はのーと言った途端、親分は君とは二次会で話そう、と。何だか彼は皆に聞かれたくない、暗部の弱みがあった？、二次会の費用は俺が持つと言った親分の慌てようは、何と言ったらいいのやら。秘密を握った彼氏は黄泉の世界に行った。

徳地町の彼氏に対しては、徳地の地名は知らんかった。そこはどの辺にあるんだ？と親分。彼がここぞとばかりに重源上人の話を始めるや、今は歴史の授業ではない、ともかく辺鄙なところから山高に通ったんだから、入会はOK。通いではなく、寮生活だったとか。

阿東町徳佐出身がその席に3名いた。親分はよく遠くから始発列車で3年間飽きもせず、毎日二食の弁当を持ってきちょったね、感心した。入会を許可する、ところで、二食の弁当は何時に食べていたのか質問が出ると爆笑の渦となった、その中の一人から、本当は三食なのだが、鞄に入らないので、学校で買って食べたという本音が出ると、おお受けだった。小生は彼とは本当に仲がよかったが、今はあちらの世界に旅立った。

最後は、親分が唯一、頭が上がらかった人。津和野では俺のことを知らない人はいないといつも豪語していた彼。親分が丁寧に、よく県外から入学しちょったねと尊敬の眼差しを向けると。そうだよ、いつも同県人といると進歩はない、その救世主になるために、山高に来てやったのだ。よく分ったか。もう一つ彼が言いたかったのは、大学進学のために県外に皆出よる、俺は皆の留守をまもるために、山大に5年間授業料を払ったのだ。これには、全員感謝感激雨霰の大拍手がわきあがった。親分曰く、長い間お世話になりました。彼の余分に払った授業料は冒頭の倍会費を払う人から当分の間負担して頂こう、と話がまとまったところで、幹事長から、これ程まで全員が七夕会を盛り立てて感謝しますで【一夜】は終了した。因みに5周年の記念誌を拝見すると、65期の会員が一割強を占めていました。

完

がんばれ山口線、早い全線復興を！

会員No.36　山根　和也

小雪が舞う夕暮れの仁保駅、東京行きの切符を握りしめて上りのディーゼル車に飛び乗った。あれは52年前のこと、17歳だった。受験のため上京し、お世話になる叔母の家に届けるお米と布団を乗せた列車（チッキ）のキップを持って。小郡駅で乗り換え山陽本線の寝台列車に初めて乗るという未知の体験にワクワクしながら待っていた。親元から次男坊は離れる！という巣立ちの不安と、受験と東京暮らしが始まるかもしれないという高なりに震えそうだったのが山口線の思い出の第1だ。

2番目は、そこからさかのぼること6年前、昭和32年3月。仁保小学校の卒業お別れ会が＜津和野遠足＞だった。乗り込んだ仁保駅から津和野駅まで引っ張ってきた機関車を津和野で切り離し、今度は上り小郡行きに操車場で方向転換させるという。降り立ったホームから操車場まで一目散にみんなで走った。操車場の転車台で方向転換したばかりの蒸気機関車の前で皆が変わるがわるに撮ったモノクロ写真がとても懐かしい。山口線のSL再デビューが早期に可能になったのは、全国的にも珍しいこの転車台が残っていたためだと、送られてきた「彩都山口」の特集でその後知った。

いま、退職して始めた趣味の「絵手紙」。花や野菜を描くのではなく、SLやNゲージの模型を描くのが好きになったのは、こんな山口線の思い出があるからかもしれない。

とにもかくにも、大好きなローカル線の早い全線開通をお祈りします。

（横浜市青葉区在住）

徳佐八幡宮をご存じでしょうか？

会員No.52　八木重二郎

山口七夕会にとって、この5年間での大きな変化と言えば、まず、平成の行政広域化政策により、旧来の山口市に小郡、秋穂、阿知須、徳治、阿東が加わったことにより、「ふるさと山口」の範囲が大きく広がったことでしょう。

次に、首都圏の会員が山口に帰り、七夕会の地元会員として活躍し始めてくれたこと。お陰で、首都圏と山口との交流に加え、地元での活動も活発化し、山口支部を発足させるところまで来ることができました。この１５周年を機に、現在の２０２０年ビジョンを補強し、これからの時代にあった「山口七夕会の役割は何か」を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

さて、前置きはこれぐらいにして、私は、現在、２０１５年に「山口県に世界遺産を実現させる」活動に力を入れており、その関係で、久し振りに萩を訪問しました。

萩から山口への帰り道は同行した七夕会の仲間たちと相談し、津和野を通り、新市域となった阿東町徳佐を経由とするルートをとることにした。

徳佐は昔から山口県内唯一のスキー場があり、地福や三谷は古くから採石などで知られ、その地名は子供の頃から承知していたので以前からこの地方には興味があったし、何より、七夕会の東京時代からの熱心な会員である関　和貴さんが６０歳を前にして一念発起され、この地で農業に取り組んでおられる。

今回、関農場を訪問し、新たに酒造会社から受注された酒米専用の農地はじめ色々な農業現場を拝見し、また、減農薬、無農薬にこだわったコメや野菜つくりのご苦労話などを聞くにつけ、関さんの立派な百姓さん振りに感心させられました。

また、関さんはすっかり地元の人たちの中に溶け込んでおられ、昼食はご紹介いただいた自治会の幹部の方々と懇談しながら頂いた。席上、徳佐の農地は戦後満州から引き揚げた人たちが苦労して開墾されたこと、徳佐米は阿東牛と並んで山口地方では美味しいとの評判を得ていること、また、古い採石場の遺跡の再開発のことやこの地方の歴史等面白い話をたくさん聞かせて頂いた。

その中で、今回、一番印象に残ったのが、徳佐八幡宮のことです。１０周年記念誌での寄稿では、山口再発見ということで、「小鯖の禅者」で書画、篆刻で著名な小林雲道人とその息子の小林東五（細川総理の陶芸の師匠）の話をご紹介したと思うが、今回はこの徳佐八幡宮としたい。

ご存じだろうか。

徳佐八幡宮は１２世紀末に大内氏によって建立された古い歴史を持つ神社で、あの源義経との悲恋で有名な静御前の終焉の地である---との伝説を持つ。歴史に興味のある方は、一度是非見学に訪れて見られたらどうであろう。

私は、桜や紅葉の時が特に素晴らしいと聞いたので、次回は、桜の季節に、湯田温泉に泊まり、SLに乗って、もう一度この地を訪れたいと思っている。そして、徳佐八幡宮と静御前のお墓にお参りをし、七夕会会員の関さんが作った酒米で出来た銘酒を飲みながら、阿東牛をゆっくり賞味したい。

皆さんもいかがですか。

【徳佐八幡宮】

私の今

会員No.219　武内衛子

終戦直前の7月、山口市に生まれ、18年間過ごしました。お転婆でやんちゃな少女時代。恥ずかしい思い出が盛り沢山。母がずい分嘆いていた姿を想い出します。

幼稚園から高校まで、楽しい学校生活でした。今だに同級生とは仲良しで、何よりみんな山口が大好きで、あの頃のままの私たちが集います。嬉しい存在です。山口を離れて50余年、元気で活動出来、健康に感謝しながら、家庭と仕事と遊びと駆け回っていました。

定年退職後、4年半前から、癌とすっかり仲良しになり、二度の手術や抗がん剤治療を受けました。周囲の方達がとても心配して下さり、応援いただきました。優しさに触れ、感謝の連続でした。

そんな折、周囲から、「強いね」「どうしてそんなに気丈なの？」と。

元来私は、極楽トンボで物事を深く考えず走り出す性分でしたので幸いしたのでしょう。それと根底にあることが…。

それは、ずっと昔に逆のぼり、小学校卒業時にお友達からお別れのメッセージをいただきました。「転んでも必ず起きるだるまさん」今思えば、小学校6年生の女の子の発想も何と素晴らしい…。賢ささえ感じます。

ずっと私の中に残っているメッセージです。

そして、究極は、いつごろか、「男なら」を耳にして以来脳裏にやきついている事があります。「長州のおなごじゃ、負けられませぬ。」私にとってかけがえのない大きな支えです。

お友達から「大切にしてよ。と言えば長州のおなごじゃ!!と返るけど、無理しないでね。」と嬉しいお叱りを頂きます。

そんな時が流れ、古希まであと1年。ゆるやかに楽しく日々を過ごし、微力ですが、数々のことに関わって行きたいと思います。数年前、「山口七夕会」のお仲間に入れていただき、先輩方、後輩方との広い繋がりが出来、今まで知らなかった山口や、幕末維新の歴史を作り、また歴史を変えた人達の逸話や、実像を身近に感じたり、更に故郷を離れて改めて山口の美しさを知りました。

美酒の奥深い味わいも知り、地酒維新の会が東京で開催されるなど、各蔵元さんの意気込みと情熱を感じます。日本酒ファンには、たまらない感動です。

故郷山口への熱き想いはどんどん膨らみます。そして、今いちど、念願の山口七夕ちょうちん祭りに足を運び、見事な真赤な提灯のトンネルをくぐりたいと思います。

子供の頃のように、新調の夏のワンピースを着て…。

50年ぶりになるでしょうか。

きっと胸がいっぱいになるだろうな…と。

そんな夢を馳せている私です。

おわり

山口七夕会　山口支部　設立2周年を迎えて

会員No. 228 山口支部長　　児玉秀文

私が山口七夕会と出会ったのは、２００４年大阪より４度目の東京勤務へと転勤して山口県東京事務所へ挨拶に伺い片山哲所長と懇談している時でした。山口高校の２年先輩と分り話が盛り上がった時に、「児玉さん実は今日山口七夕会という会があるけど参加しませんか」と誘われ、そのまま会社へ帰らず航空会館の会場へ向いました。後で分りましたがこれが第一回交流会で、原野和夫会長の「プロ野球の課題」という講演を聴講しました。

それからサラリーマン生活の最後の５年間交流会や総会に参加し、山口出身の方々と親交を深めることが出来て非常に有意義でした。というのも、５０歳～５５歳まで５年間かけて定年後終の棲家を何処にするか妻と話し合い、故郷の山口市へ帰ろうと決めた直後に東京勤務となったからでした。

２００９年定年となって計画通り山口市へ引越し、山口の我が家は山口市役所から歩いて５分の場所にあるので早速挨拶に伺いました。七夕会は東京の会だと思っていたので「東京では山口七夕会でお世話になりましたが、山口でも改めてよろしくお願いします」と言ったところ、今後も山口七夕会に在籍して下さいと言われて驚きました。聞くとその当時は山口在籍会員が数名しかおられませんでした。

しかし、縁とは不思議なもので山口七夕会の会長・幹事長が１０周年を区切りに交代され、地元との交流を深めようとの方針がでて、２００９年１２月３０日に山縣正彦新幹事長が正月に帰山する機会に、初めてオフ会を開催するとの事で有志が１０名位集まりました。この時、山口で最初に勧誘したのが、現事務局長の河内義文さんでした。

その後、オフ会やふるさと交流会が継続して開催され、山口在籍会員も口コミで徐々に増えて会員が５０名を超えた、３年後の２０１２年8月１２日に「山口支部設立総会」が６０余名の参加者の下で、山口新聞・サンデー山口の取材にＫＲＹのカメラまで入り、当時参議院議員の岸信夫先生も駆けつけて戴き、開催されました。

山口支部の役員体制は、副支部長：入江幸江・山口市議会議員、瀬川英顕・山口南署署長（当時県警本部）・事務局長：河内義文・ケイズラブ社長/山口大学非常勤講師、事務局：関和貴（ほほえみ野菜の郷代表）、佐藤英仁（佐藤商会社長）、小笠原貴芳江（ヒューモア社長）、藤野宣子（ピアノ教師）、濱野文彦（津軽三味線奏者・一燈）▽監事：平田由美（ひらた動物病院院長）、国光文夫（中国電力・職員）▽顧問：吉田充宏（山口県議会議員）と素晴らし役員が集まりスタートしました。現在は、アドバイザー：山下憲治（山口市フイルムコミッション　スーパーバイザー、ＴＹＳ役員ＯＢ）、事務局：庄栄一郎（山口県庁職員）を増員しています。また、東京本部顧問：山本和生さんにもご指導を戴いております。

山口支部設立総会では、「山口の『中』にいると気付かなかったことが、『外』からだと見えてくる。この山口支部設立が、そのような『感性』を地元・山口に持ち込むことにつながり、郷土の発展に寄与できれば」とあいさつしました。基本は山口市の発展に寄与することですが、会員自身が人間として活性化し成長できる機会となるような会となることを目指してきました。

ふるさと交流会で山口市内各界から講師を招いたり、オフ会で新人を発掘したりするだけでなく、楽農部会で田植えをしたり、若手中心の音楽部会で音楽会を開催したり、２年間取り組んできて、現在、山口支部在籍会員は１１０名を超えようとしており、色々な分野の方々と言うだけでなく、山口出身では

ない転勤族の方や若者の会員も増え始めて、良い仲間のネットワークが出来つつあると感じています。また、転勤族で東京へ転勤後、東京本部の山口七夕会へ参加されている方も数名おられます。

地方は高齢化し人口も減少して衰退の一途と思われがちですが、山口には実に多くの会があって色々な活動をしており驚きました。しかし各種会の連携と言いますか、ネットワークが十分とは言えないように感じています。人間は一人では生きていけず仲間が必要なのと同じように、各種の会も単独では中々活性化せず、会員の減少とか老化が問題となるケースが多いようです。

色々な会が連携してネットワークを作り、ベクトルを合わせることで大きな力となるような仕組みを創造できれば、会だけでなく参加する会員も活性化し成長できるのではないかと思い、今後もトライしていきたいと考えていますので、皆様のご指導とご協力をよろしくお願い致します。

林芳正農水大臣の参議選支援に山口後援会事務局長として参画し、公示日には、安倍総理の昭恵夫人・配川筆頭秘書と3 人で挨拶回りをしたときのスナップです。山口選挙区にて８０％近い得票で目標の４５万票を確保する圧勝でした。

私の現役時は転勤族でしたが定年を迎え、２００９年1月に山口高校卒業（７３期）以来４２年振りで山口へ、学生時代を含めると２１度の引っ越しの末戻ってきました。

多くの方々のお蔭で幸せかつ有意義なサラリーマン人生を全う出来たので、定年後は恩返しの気持ちでボランティア中心の生活を送ろうと考え、『人の出会いとネットワークを大切にする』をモットーに現在５０以上の各種会に所属し実践しています。但し分野を限らず、自分に向いていて出来ることをマイペースでやることが基本ですが、現在のところそれなりに役立っているように感じています。

また、縁のあった方々へメールや手渡しで、自分なりの情報発信を不定期ですがやっています。情報収集には大変な手間がかかっていますが、趣味を兼ねたライフワークのようなものです。それ以外にも、旅行・読書・畑にウオーキングなど、定年後５年半経過した時点では、結構充実した良い人生を送れているように思います。　（児玉企画　代表）

＜主要な所属＞
林芳正参議院議員山口後援会事務局長
山口市自衛隊協力会事務局長
山口日米協会理事
イレブン会幹事
白石中学校同窓会15期幹事
山口市今市町内会副会長
ＮＰＯ法人亀山公園を愛し育てる会副理事長
山口日英協会会員
山口日独協会会員
大内倶楽部役員サポータ
防長倶楽部会員
関東関西笑狸会会員
有信会会員
福陽会会員

私と山口

会員No.316　横田理博

西田幾多郎の『善の研究』は、若い頃に読んで、或る種のすがすがしさ、爽快感を覚えた本である。「善」というのは各自の心の奥底からわきあがるものに忠実に生きること、つまり「至誠」だという立場や、各自がそれぞれの「個性」を発揮していくことで社会全体もよくなるという西田の考え方に共感した。

私は大殿大路で生まれ育った。大殿大路から龍福寺の参道を進み、龍福寺の手前で左に折れ、竪小路に出るその角に、岡部さんという方のお宅がある。その岡部家の離れに、哲学者西田幾多郎が、或る時期住んでいたらしい。西田が山口にいたのは、明治三十年から明治三十二年までの二年間で、彼が二十七歳から二十九歳にかけての時期である。今の県立美術館のところにあった山口高等学校の教師をしていた。山口で西田がどんなことをし、どんなことを考えていたのか、私は最近興味をもって、この時期の西田の日記や書簡や論文などに目を通してみた。

日記によれば、西田は山口市内のかなりいろんなところに足を運んでいる。「雪舟寺」に行くという記述が三回ある。「雪舟の庭」のある宮野の常栄寺のことと思われる。そのほか、「香山園」、「鳴滝」など、我々には懐かしい地名が登場する。この時期、禅の修行に打ち込もうとしていたことが日記に窺われる。きまじめに生活を律していこうと志しているようなのだが、なかなかそうもいかず、そのつど反省している。菓子を食べすぎて、後悔し、もう菓子は食べない、と決意したりもしている。なにか微笑ましい。どんな菓子を食べていたのかはわからないが、もしかしたら外郎も食べていたのかもしれない。サッカーをしてきたという記述も五回ある。おそらく、美術館の向かいに今もあるグランドで、西田は友人たちとサッカーをして楽しんでいたのだろう。

親友に宛てて山口から西田が送った書簡には、聖書の「マタイによる福音書」第六章の、人間があれこれと思い煩う必要はない、という教えに感銘を受け、そう考えると、不平不満も解消し、心安らかになったのだと書かれている。十六世紀にザビエルが日本に来たとき、京都よりも安定し文化が豊かだった山口にザビエルは数か月滞在し、布教した。このとき大内氏から住居として与えられた「大道寺」という無人の寺があった。明治の中頃に山口に来たヴィリオンという神父が、この大道寺はどこにあったのかを探し、明治二十六年に古地図の発見によりその地が判明する。今の金古曽の地である。この出来事で、山口でキリスト教やザビエルというものが改めて話題になっていたのかもしれない。その空気に接した西田が、この山口の地で聖書の思想に魅力を感じたのであろう。

或る本によると、明治期の山口は「日本のオクスフォードとも呼ばるべき学術の都」だったという。雪舟もザビエルもヴィリオンも西田幾多郎も、我々と同じ山々を眺め、同じ五重塔を眺めていたのであろう。山口の文化の厚みを感じた。

私の今

会員No.330　奥原　保

2014年5月末、日光・鬼怒川のホテルで白石中学（昭和39年卒）の同窓会が開催された。首都圏在住者を中心に、山口・広島・大阪からの参加者を含め総勢19名の集いであった。半世紀を経ての同窓会で、この間それぞれの人生を生き抜いてきた方達であるが、その間の出来事はタイムスリップして、皆が中学生時代に戻り、夢のような2泊3日を過ごすことが出来た。

仕事の関係で栃木県に居を構え、頻繁に行っている日光東照宮、華厳の滝、中禅寺湖であるが、遠い故郷の同窓生との散策は、今までとは違った景色をみるようであった。夜は二日間近くのスナックでのカラオケ三昧、中学時代あまりお付き合いのなかった仲間達とも今までの時間を一気に取り戻したような盛り上がりであった。

最後の日、鬼怒川温泉駅ではなごりが尽きなく、次回の再会を約束しながらのお別れであった。数日後幹事からEメールで写真が送られてきたのを見ながら、昔過ごした山口時代が思い出された。

物心がついて最初に思い浮かべたのは、2~3歳のころ、父が公務員をしていた頃の萩の官舎で兄達が夏ミカンの投げ合いをしていた光景で、多分菊屋横町の近辺のような気がする。次に幼稚園に入る前の湯田温泉の光景で、朝起きたら生まれたばかりのウサギの赤ん坊が何匹も死んでいたことが思い浮かぶ。30年前に亡くなった母は、近所に住む中原中也のご母堂とお茶友達で、露山堂や常栄寺でのお茶会に一緒に参席していたようだ。その後は父が単身赴任で、今の中央4丁目に家を建てる前は、旧住所の中清水界隈の貸家暮らしであった。

当時、白石幼稚園（だいぶ前に廃園になったとのこと）、白石小学校、白石中学校、山口高校と旧ザビエル教会の鐘を聞きながら通学していた。小学校の時は出しゃばりであったが、中学・高校はどちらかといえば文学少年・青年タイプで人との交わりを好む方ではなく、高校卒業後は東京の大学に進学することを早い内から決めていた。年上の兄姉は皆家を出ており、末っ子の私まで出て行くことは両親に申し訳ない気持ちがあったが、引揚者である両親からは子供の巣立つ姿を広い心で見守って貰えたようだ。その代り社会人になってからも、両親の生前は、盆暮れ必ず帰省をしていた。

両親は30年前ごろ亡くなったが、今でも防府の菩提寺には出来るだけ墓参するようにしており、自宅には仏壇とお位牌を備え、家内からも協力してもらい頻繁にお茶、お花を供えてもらっている。また栃木県の曹洞宗の寺院にも毎月一泊参禅修行しているところである。

定年まで勤務した前の会社では忙しさにかまけて、あまり故郷との関わりを持たなかったが、ここに来て中学・高校の同窓会、山口七夕会、御縁があって防長倶楽部にも入会させていただき、この半世紀出来なかったことを一気に取り戻している今日この頃である。故郷は遠くにありて思うものだけでなく、ぐっと近づいたような気がしている。

子ども達とふるさと

会員№363　山仲秀子

あの山口での生活がずっと続くものと私は思い込んでいた。何気なく目に入っていた周りの景色、バスに乗れば顔見知りの人々。

ある時、「東京へ転勤だぞ！」のひとこえ。32歳まで一度も転居したことがない、もちろん転校もない。立派な山口弁を携えて東京生活がスタートした。あの山、川そして水田、稲穂の風景も目に入らず四季から遠ざかったような毎日であった。小学校と幼稚園が夏休みなると子ども達を連れて大急ぎで帰省した。小郡へ近づくにつれ胸がわくわくし、窓の外の景色をじっと見つめた。私はふるさとでどれ程心の潤いを得たことだろう。山口の景色が素晴らしく美しく、緑が目に沁みた。川のせせらぎの音が心地良かった。

「ケープタウンへ転勤だぞ！」「えっ！」ケープタウンと言えば中学校の時、喜望峰と一緒に学んだ街。遠い、遠い所であった。まだ歩けない娘を背中におんぶし、小学校1年生と4年生の子どもを左右に連れて出発した。その時のパスポートに張られた写真の何とも不安で暗い顔々。それでもケープタウンでの生活は始まった。ａｂｃも知らない子ども達は直ぐに現地校に通い始めた。しかし夕食後はいつも海外子女教育振興財団から送られてくる通信教育の勉強。日本の唱歌も歌った。英語の上達と共に洋服、嗜好の好みがケープタウンの子ども達と同じになっていった。ある時、次女が友だちと英語の歌を歌いながら石ころで遊んでいた。「これって、日本でやるお手玉じゃない？」日本では、着物の残り布でパッチワークのように作ったお手玉とわらべ歌で遊ぶお手玉遊び。石ころで遊ぶ我が子ども達は南アフリカの子どもになり、あのテーブルマウンテンが、あのビーチがふるさとになるのだろうかと思った時寂しかった。

四年後帰国。そして三年後に今度はスペインへ転勤。長女は高校生でアメリカンスクールへ。次女、三女は中学生と小学生でブリテイシュスクール。もうスペインの子どもになるような心配はなかった。しばらくすると長女と次女は親元を離れ帰国し、日本の高校と大学へ進学した。

数年前に家族でアパルトヘイトのないケープタウンを訪れた。以前住んでいた家、通った学校、遊んだ公園などを見て回った。そして子どもの友人家族と26年ぶりに再会し、食事をともにした。お父さん、お母さんはお変わりなかったがまだ小さかったお友達が180ｃｍもある背丈で彼女と一緒だった。感無量だった。子ども達は過ごした日々を昨日のように覚えており、大変懐かしそうであった。「子ども達のふるさとはここかしら。」しかし何度も行き、何度も泊まった私の実家がある山口もふるさとであるに違いない。ふるさとであって欲しい。

東京から見たふるさと山口。ケープタウンから、またスペインから見たふるさと山口、ふるさとへの思いは尽きない。山口弁の母親と行動を共にした帰国子女の我が娘たちにはしっかりと山口弁が身についていた。

そして、今、わたしは山口七夕会の皆様と楽しいひと時を過ごしている。

山口七夕会　　【会則】

名称
第1条　本会は、山口七夕会と称する。

目的
第2条　本会の目的は、次のとおりとする。
(1) 会員相互の親睦を図り、教養を高める。
(2) 郷土山口市との連絡を密にし、情報交換を行う。
(3) 郷土山口市の発展に寄与する。
(4) 上記各号に付帯する諸活動を行う。

本部および支部
第3条　本会は、総会の承認を得た場合に限り、本部及び支部を設置することができる。

会員
第4条　本会の会員は、郷土山口市を愛しその発展を願う個人と法人で次条に定める入会手続を経た者とする。

入会
第5条　本会に入会しようとする者は、細則に定める入会申込書に所定の事項を記載のうえ、これを本会に提出して入会の申し込みを行う。

定時会員総会
第6条　本会は、毎年1回原則として8月に定時会員総会を開催する。
2　前項に定めるほか必要がある場合は、随時に臨時会員総会を開催することができる。
3　会員総会は、会長が招集し議長となる。会長に事故ある場合は、副会長がこれに当たる。
4　会員総会の決議は、出席会員の過半数をもって決する。
5　会員総会においては、本会則に定めるもののほか次の事項について決議する。
(1)事業報告および決算の承認
(2)事業計画および予算の承認
(3)会則の変更
(4)その他幹事会が定める事項

幹事および監事
第7条　本会に15名以下の幹事および2名以下の監事を置く。
2　幹事は、幹事会を構成し、監事は本会の会計を監査する。
3　幹事および監事は、会員総会においてこれを選任する。
4　幹事および監事の任期は、選任の翌々年に開催される定時会員総会終結の時までとする。但し、再任を妨げない。
　なお、増員または補欠により選任された幹事および監事の任期は、それぞれ他の現任幹事および監事の任期と同じとする。

会長
第8条　会員総会の決議により会長1名を定める。
2　会長は、会務を統括し本会を代表する。

副会長および顧問
第9条　会長の指名により幹事の中から副会長および会員の中から顧問各若干名を置くことができる。
2　副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時はあらかじめ会長が指定した順位によりこれを代理する。
3　顧問は会長の諮問に応じて会長に助言する。

幹事長
第10条　会長の指名により幹事の中から幹事長1名を置く。
2　幹事長は、会務の処理に当たる。

幹事会
第11条　幹事会は、会長が招集し議長となる。会長に事故ある場合は、副会長がこれに当たる。
2　幹事会の決議は、出席幹事の過半数をもって決する。

３　幹事会は、次の事項を決議する。
（１）予算および決算、事業報告および事業計画案
（２）会則の変更案
（３）総会に提案する事項
（４）会長から提案された事項
（５）会務の処理に関する細則
（６）予備費の支出
（７）その他重要事項および緊急事項

会計年度

第12条　本会の会計年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。

年会費

第13条　会員は、1会計年度当たり個人は金1千円、法人は金1万円の年会費をその会計年度の始まる30日前までに納入しなければならない。

　なお、会計年度の途中において入会する場合であっても全額を納入しなければならないものとする。

２　5会計年度を超えない会計年度の年会費を一括して前払い納入することができる。

　この場合その会計年度の間に年会費の変更があったとしてもその差額について精算することはしない。

３　いったん納入された年会費は、退会その他いかなる事情があろうともこれを返戻しない。

４　大学院、大学及び専門学校などの学生の年会費は免除する。

寄付金および補助金

第14条　本会は、寄付金および補助金を受けることができる。

事務局

第15条　本会の事務局は、山口市企画経営課にこれを置く。

２　本部及び支部に事務局を置く。

附　則

平成11年2月6日施行。
平成22年7月31日一部改正。
平成24年7月28日一部改正。
平成26年7月26日一部改正。

【役員】（平成26年9月現在）

○会　長　八木 重二郎
○副会長　石田 順康、武内 衛子
○幹事長　山縣 正彦
○幹　事　原田 俊明、平林 英昭、竹重 高志、安田 宏、渡邊 史信、吉松 勇、重宗 雄造、山仲 秀子
○監　事　曽我 徳將（山口銀行東京支店長）、原 早苗
○顧　問　村田 太（山口県東京事務所長）、原野 和夫、山本 和生

＝会員数353名＝

表紙デザイン / 山根和也（会員№.39）

発行日　平成 26 年 9 月
発行元　山口七夕会事務局
〒 753-8650
山口市亀山町 2-1　山口市役所　企画経営課内
TEL：083-934-2746　　FAX：083-934-2642
e-Mail：kikaku@city.yamaguchi.lg.jp
URL : https://www.yamaguchi-tanabatakai.org

山口七夕会■設立15周年記念

15